

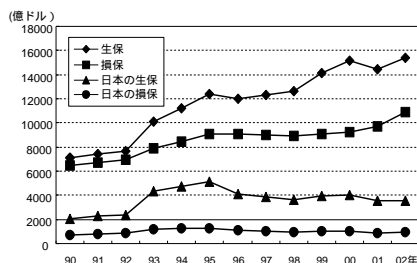
生命保険料でみた世界の生保市場

保険研究部門 松岡 博司
matsuoka@nli-research.co.jp

1. 落ち込みから回復した02年の生命保険料

2001年、世界的に株式市場が低迷する中、世界の生命保険料合計額は対前年で減少した。変額保険・変額年金等の投資型商品が主力商品となっている欧米主要国の生保市場では、株価好調時に資金が生保に流入し、株価が低迷すると資金流入がしぼむという構造となっていることがその背景にあった。しかし02年、株式市場はいまだ落ち着きをとり戻してはいなかったものの、世界の生命保険料は対前年3%増加し、歩みを持ち直した。欧米主要国では、投資型商品は伸び悩んだままであったが年金商品へのニーズが下支えとなった。また、生保市場としては新興市場である中国等の国が大きく伸びた。

図表 - 1 世界の生命保険料と損害保険料の推移



(資料) スイス再保険 “sigma” 各号より作成

一方、90年代には伸び悩みぎみであった世界の損害保険料合計額は、ニューヨークテロなどを受け料率が引き上げられたことを主な原因と

して、02年は9%増という高成長を記録した。

本稿ではスイス再保険会社の “sigma” が毎年発表しているデータを主な情報源として、世界の生保市場を見る^(注1)。同データは統計の連続性がある貴重な資料である。当ニッセイ基礎研REPORTでは、これまでも同データを用いて、00年5月、02年4月、03年4月の各号で関連レポートを掲載させていただいている。なお、同データ上のわが国生命保険料には簡易保険の保険料やJA共済の掛け金等が含まれている。

2. 国別に見た生命保険料収入シェア

生命保険料の額は先進国に偏っている。特に世界の生命保険料の4分の3を産出している上位5カ国については、ここ何年か、不動の順位

図表 - 2 国別生命保険料シェア

順位の推移			国	シェアの推移		
02	01	00		02	01	00
1	1	1	米国	31.3	30.8	29.1
2	2	2	日本	23.1	24.8	26.4
3	3	3	英国	10.4	10.6	11.8
4	4	4	フランス	5.2	5.2	5.6
5	5	5	ドイツ	4.0	3.9	3.7
6	6	7	イタリア	3.4	2.9	2.4
7	7	6	韓国	2.6	2.5	2.9
8	15	18	中国	1.6	1.1	0.8
9	12	10	スペイン	1.6	1.3	1.4
10	11	12	スイス	1.5	1.4	1.2

(資料) スイス再保険 “sigma” 各号より作成

が続いている。一方、02年になって、中国が第8位と、初めてベストテンに顔を出した。

なお、このデータは各国の生命保険料額をドルに換算して比較している^(注2)。02年のドル換算に用いられたレートは、1ドル=121.88円=1.06ユーロである。

3. 生命保険市場の成長度

(1) 上位5カ国

スイス再保険会社のデータは、現地通貨ベースでの各国の生命保険料収入の増加率から物価上昇率を控除した数値をインフレ調整後の保険料伸び率として掲載している。

02年は、シェア上位5カ国においても、プラス成長の米独とマイナス成長の日英仏とに明暗が分かれた。特に米国は6.7%成長という高い成長を記録した。

図表 - 3 シェア上位5カ国の生命保険料伸び率 (02年)

	国名	保険料伸び率	GDP実質成長率	生命保険浸透率
1	米国	6.7	2.4	4.6
2	日本	2.3	0.1	8.6
3	英国	1.9	1.8	10.2
4	フランス	0.9	1.2	5.6
5	ドイツ	2.6	0.2	3.1

(注)伸び率は現地通貨ベースでインフレ調整後のもの。生命保険浸透率は生命保険料収入をGDPで除したもの。

(資料) スイス再保険 “sigma No.8/2003” のデータより作成

(2) 成長市場

先述のとおり、経済成長著しい中国が生命保険料額でも毎年順位を上げ、02年には第8位にランクインした。中国の生命保険料額の02年伸び率は62.2%と高く、これを上回る国はブルガリアだけである。WTO合意に基づき中国政府が保険市場の開放を実行している中、各国の代表的な保険会社が現地企業と合併の形で、中国市場に参入し、激しい競争が始まっている^(注3)。

図表 - 4 生命保険料伸び率上位の国と下位の国 (%)

伸び率が大きい国		減少率が大きい国	
ブルガリア	64.3	ロシア	35.9
中国	62.2	アルゼンチン	29.1
ベトナム	61.1	オランダ	16.0
ルーマニア	60.0	オーストラリア	9.5
エルサルバドル	56.8	マレーシア	9.1

(資料) スイス再保険 “sigma No.8/2003” のデータより作成

4. 世界最大の生保会社は

欧米の保険会社の中には、子会社設立やM&Aを通じ、世界各国で急速に規模を拡大させてきた会社がある。図表 - 5 はそうした会社の代表格としてアクサ(仏)とAIG(米)をとり、両グループの生命保険料額が世界全体の生命保険料額に占める割合を見たものである。あわせて、わが国最大の民間生保である日本生命と簡易保険の保険料についても試算した。

図表 - 5 大規模生命保険事業体のシェア

	生命保険料	ドル換算	シェア
アクサ(仏)	480.48 億ユーロ	453.28 億ドル	2.95%
AIG(米)	486.62 億ドル	486.62 億ドル	3.17%
日本生命(日)	5兆4207 億円	444.76 億ドル	2.90%
簡易保険(日)	14兆3177 億円	1174.74 億ドル	7.64%

(資料) 各事業体のディスクロージャー資料、スイス再保険 “sigma No.8/2003” のデータを用いて作成
ユーロ、円の換算レートは1ドル=1.06ユーロ=121.88円を使用

民間各社のシェアは3%前後と、世界レベルで見れば意外に小さい。一方、簡易保険のシェアは7.6%と、民間各社の倍以上に達しており、おそらく世界最大の生保事業体と思われる。欧米の保険協会が簡易保険の拡大に対して意見を述べる事が多くなっているのは、世界レベルで見ても無視し得ない簡易保険の存在感によるものであることが理解できる。

(注1) 02年の数値は “sigma No.8/2003(<http://www.swissre.com> で閲覧可能)” を使用。

(注2) 世界各国の現地通貨ベースの02年生命保険料を01年の為替レートで換算しなおして計算した世界シェアでは、米国が若干大きく、他の4カ国が若干小さくなる。

(注3) 中国生保市場の動向については、当ニッセイ基礎研 REPORT03年8月号 沙銀華「WTO加盟後の中国生保市場の新動向」ニッセイ基礎研所報 Vol.32 沙銀華「WTO加盟後の中国生保市場の変化に関する実態考察」(2004年4月)を参照のこと。